

# 「アジア」の発明—19世紀におけるリージョンの生成

三谷 博（跡見学園女子大学）

## 【発表要旨】

19世紀は、今日、「東アジア」と呼ばれる地域にあった国々が、ヨーロッパが主導するグローバル化の波に飲み込まれ、それを機に互いの関係を再組織した時代であった。「アジア」という言葉は元来、ヨーロッパ人がその居住地の東に広がる広漠たる空間を指して用いていた言葉であった。この講演は、それがいかにして中身のある地域概念に変わったのかをスケッチする。外部との差別を強調し、さらに何らかの共通性、内部連関、さらには連帯性を指す言葉として用いられるようになった過程を紹介し、今回の会議のテーマ群、西洋の知の影響、ナショナリズム、および国境を越える移動を考える素地としたい。

## 【略歴】

三谷 博（みに・ひろし）／ MITANI Hiroshi

1978年東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程を単位取得退学。東京大学文学部助手、学習院女子短期大学専任講師・助教授を経て、1988年東京大学教養学部助教授、その後東京大学大学院総合文化研究科教授などを歴任。現在、跡見学園女子大学教授、東京大学名誉教授。文学博士（東京大学）。

専門分野は19世紀日本の政治外交史、東アジア地域史、ナショナリズム・民主化・革命の比較史、歴史学方法論。主な著作：『明治維新とナショナリズム—幕末の外交と政治変動』（山川出版社、1997年）、『明治維新を考える』（岩波書店、2012年）、『愛国・革命・民主』（筑摩書房、2013年）など。共著に『国境を越える歴史認識—日中対話の試み』（東京大学出版会、2006年）（劉傑・楊大慶と）など多数。